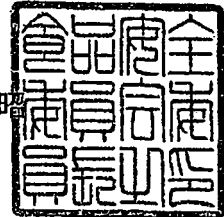




府食第 605 号  
平成 17 年 6 月 16 日

厚生労働大臣  
尾辻 秀久 殿

食品安全委員会  
委員長 寺田 雅晴



食品健康影響評価の結果の通知について

平成 16 年 4 月 28 日付け厚生労働省発食安第 0428001 号をもって貴省から当委員会に対して意見を求められたジノテフランに係る食品健康影響評価の結果は下記のとおりですので、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 23 条第 2 項の規定に基づき通知します。

なお、食品健康影響評価の詳細は別添のとおりです。

記

ジノテフランの一日摂取許容量を 0.22 mg/kg 体重/日と設定する。



# 農薬評価書

# ジノテフラン

2005年6月15日

食品安全委員会農薬専門調査会

## 目次

・ 目次	1
・ 検討の経緯	4
・ 食品安全委員会委員名簿	4
・ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿	4
・ 要約	5
I. 評価対象農薬の概要	6
1. 用途	6
2. 有効成分の一般名	6
3. 化学名	6
4. 分子式	6
5. 分子量	6
6. 構造式	6
7. 開発の経緯	6
II. 試験結果概要	7
1. ラットにおける動物体内運命試験	7
(1) 吸収排泄・血中濃度・体内分布試験	7
(2) 排泄・胆汁排泄試験	9
(3) <i>in vitro</i> 代謝試験	9
2. 植物体内運命試験	10
(1) 水稲①	10
(2) 水稲②	10
(3) ナス	11
(4) キャベツ	12
(5) キュウリ	13
(6) インゲン	13
(7) イチゴ	14
(8) カブ	14
(9) ミカン	15
(10) ナシ	15
(11) リンゴ	16
(12) 代謝物 DN のキュウリ及びインゲンにおける植物体内運命試験	16
(13) 代謝物 UF のキュウリにおける植物体内運命試験	16
(14) 代謝物 MNG のキュウリにおける植物体内運命試験	16
(15) 代謝物 PHP 及び 446-DO のキュウリにおける植物体内運命試験	17
3. 土壌中運命試験	17

(1) 好氣的土壤	17
(2) 好氣的湛水土壤	17
(3) 嫌氣的土壤	18
(4) 分解物 DN の土壤中運命試験	18
(5) 分解物 UF の土壤中運命試験	18
(6) 分解物 MNG の土壤中運命試験	19
(7) 分解物 NG の土壤中運命試験	19
(8) 土壤吸着試験	19
(9) 土壤カラムリーチング試験	19
(10) エイジドリーチング試験	19
(11) 分解物 DN、UF 及び MNG の土壤カラムリーチング試験	20
(12) 鉛直浸透試験（水田圃場）	20
(13) 鉛直浸透試験（畑圃場）	21
(14) 土壤表面光分解試験	21
4. 加水分解試験	22
(1) 原体	22
(2) 原体（強アルカリ性を含む）	22
(3) 分解物 DN リン酸塩	22
(4) 分解物 MNG	22
(5) 分解物(BCDN 及び DN-2-OH)の水中安定性試験	22
5. 水中運命試験	23
(1) 水中光分解試験（精製水及び河川水）	23
(2) 分解物 DN リン酸塩の水中光分解試験	23
(3) 分解物 MNG の水中光分解試験	23
6. その他の光分解試験	23
(1) 薄膜光分解試験	23
(2) 水中光分解試験（田面水、蒸留水）	24
(3) 分解物 DN 光分解試験（薄膜、田面水）	24
(4) 分解物 UF 光分解試験（薄膜、田面水）	25
(5) 分解物 MNG 光分解試験（薄膜、田面水）	25
(6) 分解物 PHP、446-DO、BCDN 及び DN-3-OH 光分解試験（蒸留水）	25
7. 土壤残留試験	26
8. 乳汁への移行試験	26
9. 作物残留試験	26
10. 急性毒性試験	27
(1) 急性毒性試験（経口/経皮/吸入：ラット、マウス及びモルモット）	27
(2) 急性神経毒性試験（ラット）	28
11. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性	28

12. 亜急性毒性試験	28
(1) 90日間亜急性毒性試験(ラット)	28
(2) 90日間亜急性毒性試験(マウス)	28
(3) 90日間亜急性毒性試験(イヌ)	29
(4) 亜急性神経毒性試験(ラット)	29
13. 慢性毒性試験及び発がん性試験	29
(1) 52週間慢性毒性試験(イヌ)	29
(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット)	29
(3) 18ヶ月間発がん性試験(マウス)	31
14. 生殖発生毒性試験	31
(1) 2世代繁殖試験(ラット)	31
(2) 2世代繁殖試験(追加:ラット)	32
(3) 発生毒性試験(ラット)	32
(4) 発生毒性試験(ウサギ)	32
15. 遺伝毒性試験	33
16. 一般薬理試験	36
Ⅲ. 総合評価	38
・ 別紙1:代謝物/分解物略称	42
・ 別紙2:作物残留試験成績	43
・ 別紙3:推定摂取量	47
・ 別紙4:検査値等略称	48
・ 参照	49

<検討の経緯>

- 2002年 4月 24日 初回農薬登録
- 2004年 2月 25日 農薬登録申請(適用拡大：大豆、大根、メロン等)
- 2004年 4月 28日 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請(参照1)
- 2004年 5月 13日 食品安全委員会第44回会合(要請事項説明)(参照2)
- 2004年 5月 19日 農薬専門調査会第11回会合(参照3)
- 2004年 11月 30日 追加資料提出
- 2005年 1月 12日 農薬専門調査会第23回会合(参照4)
- 2005年 5月 12日 食品安全委員会第94回会合
- 2005年 5月 12日より2005年 6月 8日 国民からの意見聴取
- 2005年 6月 15日 農薬専門調査会座長より食品安全委員会委員長へ報告

<食品安全委員会委員>

- 寺田雅昭(委員長)
- 寺尾允男(委員長代理)
- 小泉直子
- 坂本元子
- 中村靖彦
- 本間清一
- 見上彪

<食品安全委員会農薬専門調査会専門委員>

- 鈴木勝士(座長)
- 廣瀬雅雄(座長代理)
- 石井康雄
- 江馬 眞
- 太田敏博
- 小澤正吾
- 高木篤也
- 武田明治
- 津田洋幸
- 出川雅邦
- 長尾哲二
- 林 眞
- 平塚 明
- 吉田 緑

## 要 約

殺虫剤である「ジノテフラン」(IUPAC : (RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン)について、食品健康影響評価を実施した。

評価に供した試験成績は、動物代謝(ラット)、植物代謝(水稻、ナス、キャベツ、キュウリ、インゲン、イチゴ、カブ、ミカン、ナシ、リンゴ)、土壌中運命、水中運命、土壌残留、作物残留、急性毒性(ラット、マウス、ウサギ)、亜急性毒性(ラット、マウス、イヌ)、慢性毒性(ラット、イヌ)、発がん性(ラット、マウス)、2世代繁殖(ラット)、発生毒性(ラット、ウサギ)、遺伝毒性試験等である。

本剤には発がん性、繁殖への影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

各試験の無毒性量の最小値はイヌを用いた52週間慢性毒性試験の22mg/kg体重/日であった。一日摂取許容量(ADI)は無毒性量を安全係数100で除した0.22 mg/kg体重/日と設定した。